

講座 比較農史・農学原論

2.6.7 研究分野：比較農史学

構成員：	教授	野田 公夫
	准教授	足立 芳宏
	助教	伊藤 淳史
	大学院博士後期課程	7名
	大学院修士課程	3名
	専攻4回生	8名

A. 研究活動（2010.4～2011.3）

A-1. 研究概要

a) 農業経営史研究

農業経営は農業を構成する基礎的な単位である。すなわち農業経営には種々の類型があるが、それらが集まり農民諸階層が形成され、また地域的に村落・地域・一国の農業が形成され、国際的關係が展開してきている。このような農業構造の基礎的担い手の発達過程のメカニズムを解明しつつある。とくに農業経営発達の基礎過程である技術過程と経済過程及び両者の関連について重点的に分析し、それを手がかりとして農業構造の発達過程を研究している。

b) 比較土地改革史研究

戦前期日本農業史研究と現状研究の蓄積を踏まえて、両者の結節点である戦後農地改革および自作農的土地所有の歴史的評価を、主に a) で示した農業経営史的視点から検討している。それとともに、同様の視点から東アジア（韓国・中国）およびヨーロッパ（ドイツ）における第二次世界大戦後の土地改革・土地問題との比較検討をすすめており、比較土地改革論を具体化しつつその中で日本の農地改革の位置づけを明らかにすることを目指している。

c) 世界農業類型論

近年の社会科学諸領域に共通する関心は、これまで普遍的な発展方向を示すものと考えられていた西欧モデルを相対化することである。日本を対象にして膨大に蓄積されてきた農業・農村研究を総括し、そこから日本型の農業発展論理を抽出するとともに、アジア諸国・地域との共通項を明らかにしつつ、その個性を世界農業類型として位置付けることをめざしている。かつて農法論視点から世界農業類型が提示されたが、私たちがめざすのは、それに現実の歴史過程を踏まえた新たな類型論の創出である。

d) 比較戦時農業史研究

これまで必要性が叫ばれていた割にはすすまなかった、アジア・太平洋戦争期の農業・農村実態の解明に取り組んでいる。「戦時体制下の技術・生産・経営」「統制経済下の農村実態」「満州農業移民の生活と経営」などを具体的なテーマにしつつ、極端な傾斜生産が農業に与えた影響、統制とインフレが農村に与えた影響、「大東亜共栄圏」下の日本農業・農村の位置などを研究している。さらに、おかれた状況に共通性が高いドイツとの比較にも取り組んでいる。

d) 現代ドイツ農村史研究

従来の近現代ドイツ農村史研究は、第一に農村の主要な担い手である土地貴族層と農民層に主に焦点を当てており、その下にいる多様な下層民の実態分析が不十分であり、第二に主に政治・経済構造分析に偏重しており、多様な層から構成される農村社会のトータルな把握という点で不十分であった。そうした反省にたち、外国人季節労働者問題に代表される農村の「エスニック」問題、ドイツ農業とナチズムの問題、戦後の東西ドイツにおける土地改革集団化と農村難民問題の比較研究などについての研究に取り組んでいる。

A-2. 研究業績（国内・国外含む）

a) 成果刊行

著 書

・足立芳宏『東ドイツ農村の社会史―「社会主義」経験の歴史化のために―』（単著）（京都大学学術出版会） 2011年2月18日、1- 688 + xv 頁

・伊藤淳史『新修茨木市史第6巻 史料編近現代』（共著）茨木市史編さん委員会編、2011年3月、（史料選択および解説 299-362, 879-883頁）

原著論文（書評論文を含む）

・野田公夫 「 「人びとを主人公にした現代史」の試みをめぐって」 『日本史研究』574号、2010年6月、. 86-101頁（査読あり）

・ Ito Atsushi “Emigration Policy in Postwar Japan: An Aspect of Agricultural Policy and Historical Context of Japanese Brazilian Immigration” 『農林業問題研究』第46巻第2号、2010年9月、177-186頁(査読あり)

・ 足立芳宏「石井 聡 著『もう一つの経済システム—東ドイツ経済計画下の企業と労働者』(北海道大学出版社)、『ドイツ研究』第45号、2011年3月、217-221頁。(書評論文、査読なし)

報告書・その他

・ 伊藤淳史「内原グループ・石黒農政再考—戦後の活動に着目して—」『農本思想の現代的意義に関する研究』2008年度～2010年度科学研究費補助金基盤研究(C)(代表 岩崎正弥)、2011年3月、89-102頁

A-3. 国内における学会活動など①

所属学会等(役割)

- ・ 野田公夫：日本農業史学会理事
- ・ 足立芳宏：日本農業史学会理事

A-3. 国内における学会活動など②

競争的資金等獲得状況

①科学研究費補助金

・ 基盤研究(B)：野田公夫：農林資源問題と農林資源管理主体の比較史的研究—国家・地域社会・個人の相互関係—

・ 基盤研究(c)：足立芳宏：戦後ドイツ農業の形成に関する史的研究—戦時入植政策から農業構造政策へ—

- ・若手研究(B)：伊藤淳史：近現代日本農村における人口移動－満洲移民・戦後開拓・戦後移民－

A-4. 国際交流・海外活動①

国際会議・研究集会等（国、役割）

- ・野田公夫：韓国全北大学付属米・生活・文明研究所第3回国際シンポジウム（招待報告者）

国際共同研究・海外学術調査等

- ・足立芳宏：「戦後ドイツ農業形成」に関する海外史料調査（ドイツ2010年9月）
- ・足立芳宏：「ドイツにおける農林資源開発史」に関する海外史料調査（ドイツ2011年3月）

B. 教育活動（2010.4～2011.3）

B-1. 学内活動

a) 開講授業科目（担当教員）

- ・全学共通科目： 世界の食料・農業・環境Ⅱ－持続可能社会に向けて－（野田：分担）、生物圏の科学－生命・食料・環境－（野田：分担）
- ・学部： 農業・農村史（野田）、食料・環境経済学概論Ⅰ（野田：分担）
社会経済史（足立）、食料・環境経済基礎社会経済論（足立：分担）、専門外国書講義Ⅰ（足立）
農業・農村史演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（野田、足立、伊藤）
調査研究方法実習Ⅰ、Ⅱ（野田、足立、伊藤）
- ・大学院： 比較農史学ⅠⅡ（野田）、比較経済史（足立）、比較農史学専攻演習（野田、足立、伊藤）

B-2. 学外における教育活動

学外非常勤講師

- ・ 野田公夫：岡山大学農学部・日本農業史
- ・ 野田公夫：神戸大学農学部・日本農業史

B-3. 国際的教育活動①

留学生・外国人研修員の受入

- ・ 留学生：修士課程 1名（中国）

C. その他

- ・ 野田公夫：農業開発センター・理事、京都府農業会議・専門委員